

自ら社会に関わり、他者と協働しながら 豊かな未来を創造しようとする子供の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して、
よりよい社会の形成に参画する力を育てる授業の構想～

提案者 宇都宮市立横川東小学校 教諭

島 田 久美子

1 はじめに（研究主題設定の理由）

- (1) 現代社会の情勢や新学習指導要領改訂の趣旨から
- (2) 本校の特色や児童の実態から
- (3) 條小社研の研究主題から

2 研究の仮説

「社会的事象の見方・考え方」を働きながら深い学びにつなげる教材を開発し、学習内容の構造を明らかにするとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる「問い合わせ」や追究のプロセス、学習活動を工夫して指導すれば、児童の思考力・判断力・表現力が育ち、よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を養うことができるであろう。

3 研究の視点

視点1 「社会的事象の見方・考え方」を働きながら深い学びにつなげる教材の開発

- (1) 人間の思いや願い、工夫や努力が見える教材の開発
- (2) 視点・教材・獲得する知識を関連付けた教材の分析
- (3) 教材における社会に見られる課題の明確化

視点2 学習内容の構造化

條小社研の研究の視点に従い、学習内容と教材の関係を一体として捉え、追究のプロセスを大切にしながら「学習内容構造図」を作成した。学習内容構造図には、「学習問題」「発問と調べて分かること」「考えて分かること」「総合的に捉えさせたいこと」「選択・判断すること」を示し、「総合的に捉えさせたいこと」については、子供の言葉で表し、実践レベルで活用しやすいものとした。

視点3 主体的な学びにつなげる「問い合わせ」の構成

- (1) 子供の主体的な問題解決学習を促す「問い合わせ」の設定
- (2) 「振り返り」を生かした「問い合わせ」の設定

視点4 対話的な学びにつながる学習活動の工夫

- (1) 実社会に生きる人々との対話を取り入れた学習活動の工夫
- (2) 互いの考えを広げ深める話し合い活動の工夫
 - ①個人の学習を充実させ、話し合い活動に臨む

「一人一人の考えをつなごう！リレー発言」を活用し、課題の解決に向けて協働的に友達同士で発言をつないだり、考えの根拠を友達にしっかりと伝えたりできるよう指導していく。

②「考え方葉」を使って、社会的思考を働かせながら考える

子供たちが考えを広めたり深めたりするために、下記のような「考え方葉」を使って社会的思考を働かせながら考えることができるようとする。

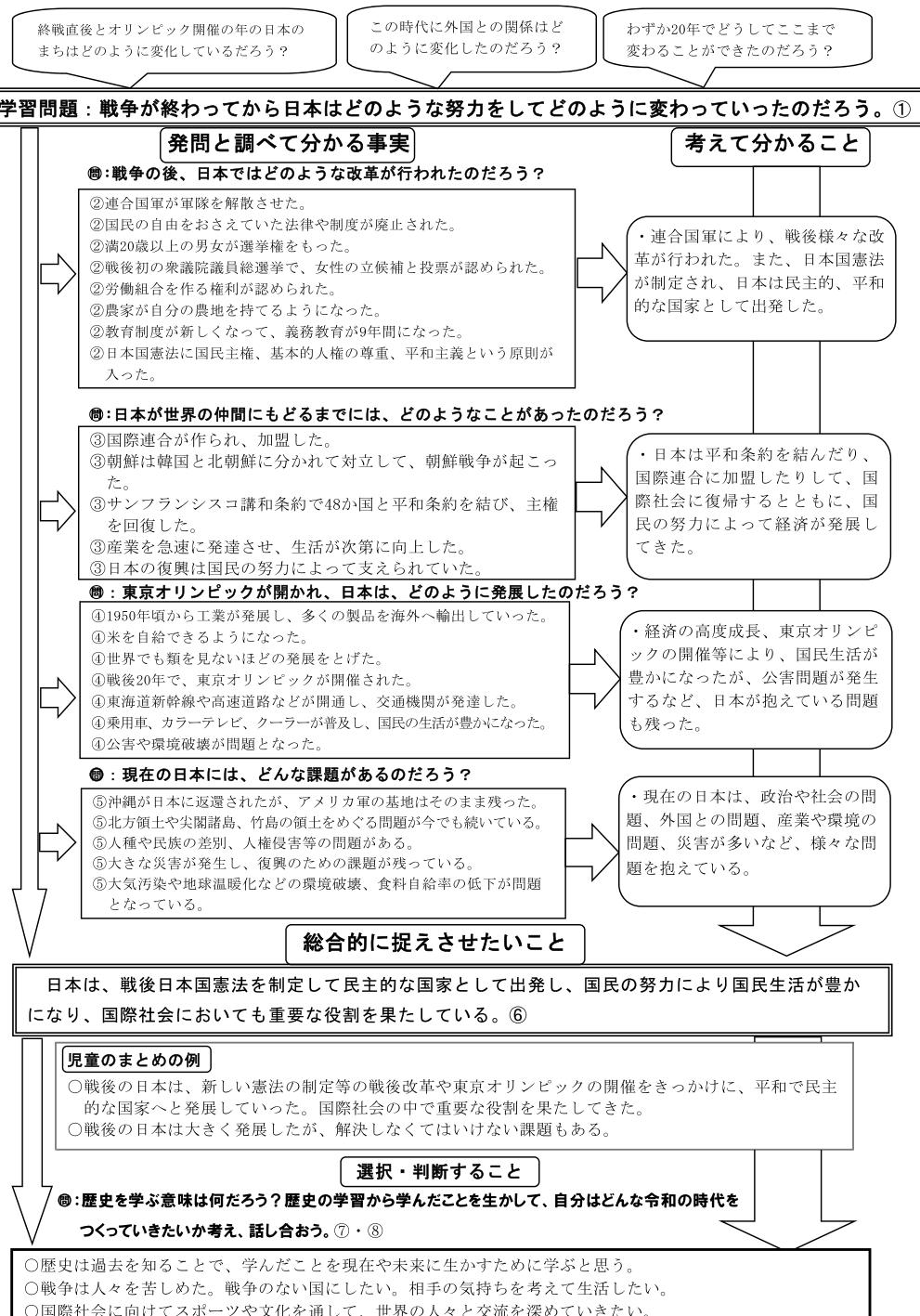
ア ～ので、だから…因果関係の把握	イ ～のために…目的と手段の関係把握
ウ つまり、まとめると…帰納的・抽象的に把握	エ たとえば…例示、演繹的・具体的に把握

③板書やワークシート、ノート、その他協働的な学びのツールを工夫する

資料活用の技能や、思考力・判断力・表現力を高めるために、「社会科のノートのとり方」について指導する。見開き2ページに、「問い合わせ、予想、調べたこと、考えたこと、まとめ」を記入し、友達の考えでよかったですも書き加えていく。

4 6学年「新しい日本、平和な日本へ」学習内容構造図

※○数字は時数



5 指導案（8／8時）

指導者 第6学年3組 島田久美子

- (1) 題 目 歴史から学んだことを生かして、自分はどんな令和の時代をつくっていきたいか考え、話し合おう

(2) 本時の目標

- 歴史から学んだことを生かして、自分がどんな令和の時代をつくっていきたいか考え、表現している。

(社会的事象に主体的に関わろうとする態度)

(3) 授業の観点（研究主題との関連）

- グループや全体で話し合う等の学習形態を工夫し、「考え方」を使わせたことは、自分がどんな令和の時代をつくっていきたいかの考えを深めたり、分かりやすく表現したりするために有効であったか。

【研究の視点 4(2)-②】

(4) 展 開 ☆研究主題との関連 ※人権教育上の配慮 ◎児童指導上の留意点

主な学習活動・内容・予想される児童の反応	教師の支援と評価	資料
<p>1 前時に話し合った歴史を学ぶ意味を確認し合う。 〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史は過去を知ることで、学んだことを現在や未来に生かすために学ぶと思う。 過去の人々がつくった歴史を私たちが受け継ぎ、未来の人々に伝えていくために学びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた歴史上の人物や文化遺産の資料、各時代のキャッチフレーズなど学習したことを振り返り、意識できるよう、年表を掲示しておく。 4月に児童が考えた歴史を学ぶ意味と前時の児童の振り返りを掲示したり、紹介したりして、前時と本時のつながりを意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年表 児童が作った時代年表 ノート
めあて：歴史から学んだことを生かして、自分はどんな令和の時代をつくっていきたいか考え、話し合おう。		
<p>2 これからどんな令和の時代をつくっていきたいか、全体で話し合う。 〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 弥生時代から始まった米作りは日本人にとって大切だ。農業が発展するようにしたい。地元の食材を食べるなど協力していきたい。 戦争は人々を苦しめた。戦争のない国にしたい。困っている人を助け、相手の気持ちを考えて生活したい。 広島・長崎の原爆投下を調べて核の怖さが分かった。 核兵器がなくなって欲しい。まずは、核兵器についてもっと調べたい。 男女不平等な時代が続いた。津田梅子のように歴史の中で活躍した女性もいることが分かったので男女平等な世の中にしたい。男女が協力して過ごせるようにする。 産業が発展していく中で、環境問題が起きた。環境にやさしい時代を目指すべきだ。ものを大切に使い、ごみを少なくする生活を心がけたい。 これから日本の課題について考えた。国際化していく中で外国人の人とも協力していくいろいろな課題を解決できるよう話し合っていくことが大切だ。スポーツや文化を通して外国の歴史や文化を知り、英語も話せるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で話し合いをする前に、近くの友達と情報交換をすることで、自分の意見に自信をもち、発表しやすい雰囲気づくりをする。 これまで使っていた歴史人物の名札を外し、自分の名札に戻らせて自分で自分もこれから時代をつくっていく一員だと自覚できるようにする。 どんな令和の時代をつくっていきたいか、それを考えた歴史的根拠、そのための具体的な方策などを事前に考えさせておく。 今までのノートや資料を基に、自分の意見の根拠や理由を明確にして具体的な言葉で表現できるようにさせる。 <p>◎友達の考え方と自分の考え方をつなげるやり取りができている児童を称賛する。</p> <p>☆※話し合いをするときに友達の意見を自分と比較しながら考え、感想を伝えたり、分かりにくいくらいは質問したりするように伝え、受容的で対話的な学びを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる段階で考えた日本の課題を掲示することで、未来を見据えて自分ができることを考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート これからの日本の課題の掲示 歴史的事象の写真（空襲や原爆、女性の参政権等） 世界の状況を表す資料（観光客の推移のグラフ、環境問題が分かる資料） 戦時中・戦後の体験談の掲示物 日本国憲法前文 考え方の掲示

- ・歴史的事象や世界の状況を表す写真や資料、地域の人々の体験談を掲示することで、各自が根拠として挙げた事柄を確認し、具体的な方策が想像しやすいようにする。

☆「だから」「～のために」「たとえば」などの「考え方葉」を使うことで、歴史を学ぶ意義とこれから自分の意志表明や態度につなげる手立てとなるようとする。

評価 歴史から学んだことを生かして、自分がどんな令和の時代をつくっていきたいか考え、表現している。
(社会的事象に主体的に関わろうとする態度) [ワークシート・発言]

【おおむね満足できる状況】

- ・歴史で学んだことを根拠として、今自分ができることを考え、表現している。

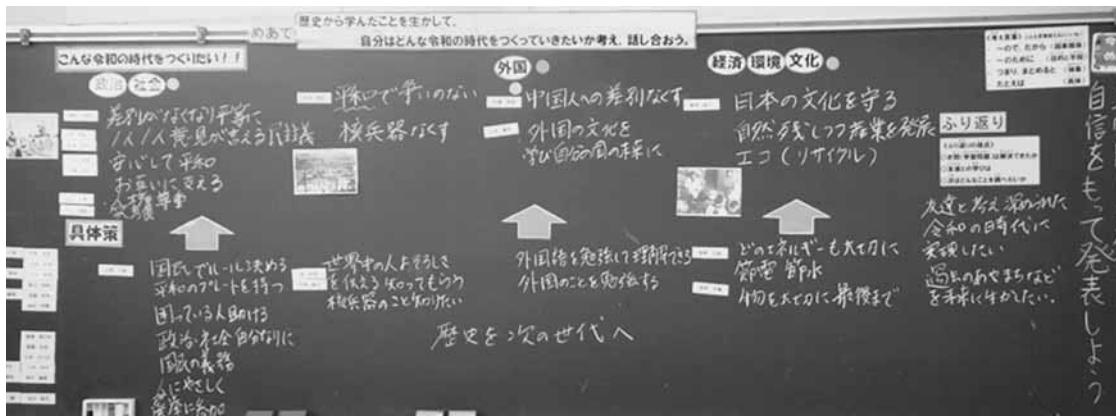
【十分満足できる状況】

- ・歴史で学んだことを根拠として、課題を踏まえ、未来を見据えて今自分ができることを具体的に考え、表現している。

【おむね満足な状況に達していない児童への支援や手立て】

- ・歴史で学んだことを振り返らせ、今自分ができることについて友達の意見を基に考え、表現できるようにする。

<p>3 これまでの歴史の学習と本時を振り返る。 〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none">・歴史を学び、調べていくことは楽しかった。ただ、昔のことを覚えるだけでなく、これから的生活に生かしていきたい。・平和で民主的な令和の時代にするため自分ができることを今日から取り組んでいきたい。・友達の意見を聞いて、どんな令和の時代をつくりていきたいかの自分の考えが広がり、深まった。	<ul style="list-style-type: none">・4月から歴史を学習してきた最後の時間だと伝え、歴史の学習と本時の振り返りができるようにする。・本時のめあてを再確認することで、めあてが達成できたかを振り返る。
---	---



第8時 板書



児童の様子



児童のワークシート

6 研究の成果と今後の課題

(1) 成 果

○人々の生きる姿が見える教材の開発

⇒自分の生活や生き方とつなげて考え、社会的事象への関心を高めることができた。

○「社会的事象の見方・考え方」の視点・教材・獲得する知識を関連

⇒社会的事象の特色や意味、相互の関連を考えながら追究することができた。

○学習内容構造図の作成

⇒目指すゴールや追究のプロセスを意識しながら単元を展開することができた。

○主体的な追究活動を促す「問い合わせ」

⇒多角的に理解したり、深く考えたりすることにつながった。

○話合う目的を明確にしたり、リレー発言や考え方葉が定着したりした。

⇒子供達同士で意見のやり取りができるようになった。

○構造的な板書とワークシートの運動、資料提示やノートの工夫

⇒思考力・判断力・表現力の向上

(2) 課 題

・「社会的事象の見方・考え方」を働かせるための教材や問い合わせ

・選択・判断の在り方

・全ての教科に通じる主体的・対話的で深い学び

⇒よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎をさらに培っていきたい。